

目次	頁
序	
凡例	
大正デモクラシーと県民	1
第一章 日露戦後経営	13
第一節 二十世紀初頭の県勢	14
大正デモクラシー期の政治経済／社会発展と行政機構の拡大／日露戦後から大正末の地方財政／ 景気の循環と産業発展／人口の増加と都市化／一九二〇年の産業人口／交通と運輸の発達／ 六代都市の中の名古屋	
第二節 町村合併の実施と地方自治の発展	30
府県制の改正と知事の権限強化／日露戦後経営の展開／町村合併が難航した愛知県／ 深野一三県知事の町村合併政策／合併後の町村政策／成績不良の町村／町村内の対立の諸類型／ 郡役所移転問題／県庁機構の確立と新町村の動向／各種自治団体の活躍／大正デモクラシーと地方自治	
第三節 日露戦後の政党と県会	50
日露戦後の総選挙と県政界／大正政変と愛知県の護憲運動／ジーマンス事件と海軍廓清演説／ 立憲同志会の混迷／営業税廃税運動の展開／非政友三派の連携と鈴置倉次郎／ 立憲政友会優位の崩壊／憲政会の成立と代議士の新傾向／地域利害をめぐる政党の内紛	
第四節 軍隊と地域社会	76
第三師団の凱旋／慰霊と戦勝記念／第十五師団の豊橋への設置／帝国在郷軍人会の設立／ 在郷軍人会の活動と地域社会／軍事演習と地域社会／第一次世界大戦とシベリア出兵／ コラム ドイツ人捕虜の技術と愛知県の産業	
第二章 日露戦後の産業と流通	99
第一節 産業の発展	100
産業と企業／日露戦後恐慌／知多の事業家の盛衰／知多の食品工業／三河の産業改良と製糸業／ 尾勢紡績合同とガラ紡／織物業の機械化／東三河の織物業／尾張の織物生産と流通／ 瀬戸・常滑・碧海郡の窯業／輸出陶磁器の絵付けと流通／重工業化の動き／ 第一次世界大戦直前の産業界／コラム 近代化遺産の調査と活用	
第二節 財政と金融の展開	124
日露戦後の地方財政／日露戦後恐慌と名古屋三大銀行／日露戦後の中小銀行／尾三農工銀行の発展／ 郵便貯金の発展／日露戦後の株式市場	
第三節 中央本線の開通と地域の対応	140
鉄道国有化と県内の物流／中央本線開通／軽便鉄道叢生の前提／西尾鉄道／三河鉄道／ 愛知電気鉄道／愛知馬車鉄道／名古屋駅の改良／道路整備の進展／道路車両の変化／ 通信制度の変化／郵便線路の展開	
第四節 名古屋港の開港と拡張	164
熱田湊から名古屋港へ／開港後の貿易と流通／海運の近代化と多様化／内国貿易中心の交易／ 航路の整備と築港の継続／肥料流通の変化／木材の流通／港湾行政の整備と物流業／ 財界と築港事業／伊勢湾と三河湾の流通	
第三章 都市化の時代	185
第一節 都市社会の形成	186
共進会の成功と産業の発展／市勢の拡大／郊外開発の加速／都市基盤の整備／ 建設業と設計者の活躍／都市工業の発展／流通拠点化と卸売業／輸送の近代化と商業／ 産業都市化と都心化／コラム 都市の消費と商店	
第二節 名古屋の都市計画	210
日露戦後の都市整備の本格化／大名古屋産業都市構想／中川運河計画の沿革／ 大名古屋建設への取組／都市計画法と地方委員会／地方委員会事務局の思想と活動／ 都市計画法への名古屋市の対応／周辺町村の編入と電鉄市営化／名古屋都市計画の特徴／ 名古屋都市計画の策定過程／街路計画の追加と公園計画／街路網と中川運河の事業化／ 土地区画整理事業の展開	
第三節 豊橋・岡崎・一宮の発展	236
豊橋・岡崎・一宮の都市形成／郡部の町の人口増加／豊橋市の誕生／岡崎市の誕生／一宮市の誕生／ 中小都市の都市問題と市政／最重要課題の上下水道整備／中小都市の都市計画／都市計画区域の設定	
第四節 都市化と都市問題	258

第一次世界大戦と大戦景気／スペイン・インフルエンザ／第一回国勢調査／半田町と瀬戸町の発展／ 食料流通の拡大／生活と消費の近代化／都市で働く人々／都市社会と警察／都市火災と消防近代化／ 臨海開発と災害／都市衛生施策と伝染病／豊かさの中の生活難	
第四章 農村社会の変貌	283
第一節 日露戦後の農村社会と地方改良	284
世界の一等国を支える農村社会／増大する農家の消費支出／養蚕と日銭稼ぎ／戊申詔書の発布／ 地方改良運動と町村基本財産／神社経費の節減と神社統合／山崎延吉の農村自治論／ 地方改良実例と模範村	
第二節 農林水産業の動向	304
農畜産物の生産額動向／農業団体の組織化／米穀改良事業と共同販売／養蚕業の改良と養蚕組合／ 園芸・畜産と大都市消費市場／治山事業の始まり／林業と木材流通／漁業・養殖業の生産と組織化／ 漁業の停滞と養殖業の発展／水産製造業の進展／専売制下の製塩業の縮小・再編	
第三節 地主制の停滞と小作争議	330
小作争議の高揚／小作人組合／地主組合／協調組合／小作料減免要求争議／農業の不振／ 小作権関係争議／地主的土地所有の退潮／小牧町小作争議／熱田前新田小作争議／ 小作調停と自作農創設の動き／コラム 鳴海小作争議と雉本朗造	
第四節 第一次世界大戦後の農村振興	354
進む向都離村／地方都市の発展と消費生活／消費の発展と都市での労働／農村計画と方向の転換／ 農村青年の生き方と意識／希望としての日本デンマーク／未完の農村振興	
第五章 中京経済圏の形成	375
第一節 大戦景気と地域経済	376
都市化と工業化／中京経済圏の形成／第一次世界大戦期の銀行業／産業の発展とその背景／ 工業地帯の形成／流通の拡大／伊勢・三河湾の海運の動向／流通基盤の整備と卸売商／ 貿易商の成長／勸業政策と同業組合／商工業団体の広がり／公設市場と商工行政／ 大名古屋と都心化	
第二節 地場産業と地域社会	402
地場産業の発展／尾西産地と絹綿交織物生産／毛織物生産と着尺セル／洋服地用セルへの転換／ 知多産地の力織機化／西三河の綿織物業／東三河の綿織物業／製糸業の発展／ 名古屋・瀬戸の陶磁器生産／常滑・高浜の窯業／中埜酢店の経営展開／トマト加工業の発展／ 三河食品工業の発展／肥料製造業の発展と販路拡大／大戦後不況と地場産業	
第三節 重工業化と貿易拡大	426
一九二〇年代の経済発展／電力会社再編とガス会社の分離／電力戦／重工業と兵器製造業／ 機械工業／輸送機械と時計製造／輸出入の拡大／陶磁器の輸出／大企業の発展と中小経営の集積	
第四節 活躍する企業家たち	446
地域経済と企業家／中京財閥の発展／伊藤次郎左衛門家の発展／瀧兵右衛門・定助家の発展／ 中京財界の指導者の交代／尾張郡部の企業家たち／三河地域の企業家たち／ コラム 朝鮮へ進出する愛知県民	
第六章 教育・文化の新展開	463
第一節 教育の進展	464
就学・出席率の低迷と督励／大正新教育の展開／中学校・高等女学校の増設／ 受験競争と中等学校の入試改革／織染学校の設立／二つの陶器学校の県立移管／ 養蚕・園芸の発展と実業学校／第八高等学校の設立／愛知医専の大学昇格／幼稚園の増設／ 名古屋市立盲啞学校の設立／名古屋市立盲啞学校の口話法／青年団体の結成推進／ 市郡・県単位の青年団組織化	
第二節 文芸・絵画・音楽の動向	488
文化の普及と課題／日露戦後の文学／第一次世界大戦後の文芸／探偵小説の萌芽／ 歌句の動きとモダニズム詩の礎／子どものための文芸運動／近代画壇の成立と展開／ 日本画の動向／洋画の動向／西洋音楽の普及／コラム 広津柳浪と和郎／ヨネ・ノグチ	
第三節 文化の大衆化とメディア・スポーツ	512
名古屋市民大学運動の展開／中小都市・農村の文化状況／図書館増設の動き／ 市立名古屋図書館の設立／名古屋公衆図書館の設立／新聞の普及／ラジオ放送の開始／ 活動写真と弁士・映画館／スポーツへの参加・観戦	
第四節 伝統芸能と宗教	536

豊かな伝統の上に育つ文化／伝統演劇の新しい波／盛んになる女芝居／女義太夫・浪花節の流行／ 伝承の危機にある伝統音楽／文化財の保護と調査／神道と仏教／キリスト教と新宗教／ 金子白夢と伊藤証信	
第七章 権利への目覚め	559
第一節 米騒動と社会運動	560
社会主義運動の展開／大逆事件と愛知／電車焼打ち事件／名古屋の米騒動／県内各地の米騒動／ 米騒動への対応／日露戦後の労働争議／紡績労働者と『女工哀史』／友愛会と名古屋労働者協会／ 愛知時計争議と中部労連／労働組合に対する弾圧／一九二五年の名古屋の労働組合／ 豊橋の労働運動／電気料金値下げ運動／公害をめぐる紛争／借家人の運動／ 労働組合の分裂と社会運動／コラム デモ隊の歩いた道	
第二節 普通選挙運動	594
名古屋の民本主義論争／民本主義対国民道徳の演説会／鈴木楯夫の普通選挙運動／ 兵役終了者の参政権／普通選挙運動と吉野来名／普通選挙運動と労働運動／第十四回総選挙／ 直接行動論から共同戦線へ／県内各地の普選演説会／在郷軍人会の参政権運動／ 普通選挙現実化の中で／普通選挙法の成立	
第三節 差別される人々と人権	622
被差別部落の状況／改善事業の始まり／被差別部落の産業／細民地区と改善運動の開始／ 愛知県水平社の成立／融和部の設立と隣保館・共存園／朝鮮・中国・タタール人の居住／ 在日朝鮮人の民友会と相愛会／関東大震災と朝鮮人／障がい者への対応	
第四節 社会事業の推進	642
社会事業の模索／感化事業大会と愛知県救済協会／慈善事業団体の設立／ 救済事業調査会官制の公布／方面委員制度の開始／関東大震災の救援活動／一九二〇年代の社会事業	
第八章 政党政治の展開と慢性不況	655
第一節 第一次世界大戦後の政党と県会	656
原内閣成立後の政友会と憲政会／政友会の市郡対立と三輪市太郎／政友会県支部の刷新／ 第二次護憲運動と憲政会の躍進／初の県出身首相加藤高明／県会での都市と農村の利害対立／ 政革合同と愛知床次会の結成／小山松寿と田中善立の台頭／県知事と県会・政党／ コラム 大口喜六と豊橋市の政党地図―実業派と同志派の対立―	
第二節 民力涵養運動と郡制廃止	674
県財政の膨張／大衆課税としての戸数割の強化／民力涵養運動の展開／各種団体の結成／ 公民権の拡張／郡制・郡役所の廃止／両税委譲運動の挫折	
第三節 慢性不況と金融界の再編	690
戦後景気から慢性不況へ／貯蓄銀行法と貯蓄銀行の再編／信託業法と信託業の再編／ 尾三銀行の破綻／名古屋三大銀行と県内銀行／コラム 鈴木禎次の銀行建築―旧岡崎銀行本店―	
第九章 デモクラシーの光と影	707
第一節 女性と家族制度のしがらみ	708
女性の目で愛知をみる／「夫唱婦和」は家庭の根本義／和から洋への転換／増加する女学生／ 子どもが抱える問題点／嫁の労働で支えられる農家／前借金と廃業の困難	
第二節 社会を変える女性への成長	730
愛知織物会社女子工員の実態／人間として扱われる労働者へ／行政・企業の女性団体育成／ 女教員の位置／職業婦人の増加／女性団体の内実／学び活動する女性団体へ／ 新婦人協会支部の活動／婦人参政権要求に向かう運動／コラム 『名古屋新聞』記者市川房枝	
第三節 天皇の代替わりと県民	752
国民統合への動き／明治天皇の死去／明治天皇の葬儀と県民の動員／大嘗祭と悠紀齋田の選定／ 大正天皇の即位と名古屋滞在／大嘗祭当日の名古屋市内／皇太子の外遊と成婚／大正天皇の死去／ 大正天皇の葬儀／国民精神の作興と二つの道	
あとがき	766
執筆分担	768
引用・参考文献一覧	770
掲載図版一覧	794
資料提供者及び協力者	810
愛知県史編さん関係者名簿	812
索引	